

イエス・キリストの系図

マタイ1章1～17節

2021年12月05日

松田 基子 師

待降節第2主日を迎えました。 神の御子イエス・キリストの降誕の意味を深く知るべき時です。今朝の聖書箇所は新訳聖書の冒頭、マタイによる福音書の、イエス・キリストの系図です。ところで、マタイはイエス・キリストの福音を伝えるにあたって、何故、先ず系図を持って来たのでしょうか。それは、マタイによる福音書は、イエス様がお生まれになった、ユダヤ人キリスト者に向かって書かれたものだからです。

イスラエルの民は、自分達を、アブラハムを祖として、神様に選ばれた民であり、神様はダビデに約束された通り、ダビデの系譜から、

『ダビデのように、強いイスラエルを回復してくれるメシア、救い主が現れる』

と堅く信じていました。

- (1) 神様のアブラハムとの契約。
- (2) モーセに率いられて、出エジプトをしてきたイスラエルに、シナイ山麓で、イスラエルは、神様の宝の民、祭司の王国、聖なる国民となる、と言われた契約。
- (3) ダビデに永久の王座をお与えになると言う契約。

イスラエルの民は、これら三つの契約を核として、神様の御業が現れることを信じ抜いて来ました。

その彼らに、イエス様こそ、神様がお遣わしになった、**真の救い主、メシア**であることを知って貰うためには、先ず系図が必要でした。マタイはそれをその時代の一般的な系図に倣うのではなく、そこに、神様の遠大な人類救済の歴史を読み取る系図の構成を考えています。

マタイ福音書1章1節に、

「アブラハムの子ダビデの子、イエス・キリストの系図」

とあります。私達が使っています、新共同訳聖書には、『アブラハムの子』の後に、読点が無いため、『アブラハムの子』は、『ダビデ』に係ってしまいます。しかし、岩波訳は、

「アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの誕生の記録」

と訳しています。岩波訳は、

「そうでなければ、意味を成さない」と記しています。

何故なら、神様はアブラハムにも、ダビデにも、それぞれに約束をお与えになったからです。神様は、人類救済の、壮大なスケールを、アブラハムに、創世記12章2節で、

「わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める。祝福の源となるように。」

と言って招かれました。アブラハムはその時、神様の究極の祝福が何であるかは、まだ分かってはいませんでした。神様に全信頼して、神様に命じられるままに、異教の世界から脱出して、神様が示される地へと、従順に従いました。

彼は生涯、神様への信頼、従順を貫き通しました。アブラハムからダビデまで、約千年、アブラハムやダビデの時代、神様の祝福は、人間の側からは、物の豊かさ、国土の拡大など、目に見える豊かさを神様の祝福だと、考えていました。確かに神様は、アブラハムやダビデに多くの財を与え、祝福の証とされました。しかし神様が与えようとしていた真の祝福は、そのような物ではありませんでした。神様は、ダビデには、

『永久の王座を与える』

と契約を結ばれました。地上の王国は、力の強い者が取ったり、取られたりの世界です。この世に、永久の王座はありません。神様はそのようなこの世界に対して、ダビデに、永久の王座を約束されたということは、神様の**全き支配が来ることを示して**いました。

イエス様はマタイ福音書22章44節で、ダビデが、ご自身について、

「主は、わたしの主にお告げになった。

『わたしの右の座に着きなさい、わたしがあなたの敵を、あなたの足もとに屈服させるときまで。』

と言っていることから、ご自身がダビデの主であり、神の右の座に着かれる永遠の王とされることを示されました。そしてダビデから、千年後、神の御子、イエス・キリストが全人類の罪を贖う真の救い主、永遠を支配される、永久の王座に着くお方として、この世にお生まれになりました。そこに至るまでの、約

2千年の歴史は、
『人間の現実、人間とはどのような者か』
が描き出されると共に、
『神様の人類に対する愛と真実』
が、そこから浮かび上がって行きます。

ユダヤ民族の待望は、ダビデの子孫として現れるメシア、救い主にありました。彼らは預言者の言葉を信じていました。

イザヤ書11章1節に、
「エッサイの株からひとつの芽が萌え出で、その根からひとつの若枝が育ち、その上に主の霊がとどまる。知恵と識別の霊、思慮と勇氣の霊、主を知り、恐れ敬う霊。」

とあり、エレミヤ書23章5節には、
「見よ、このような日が来る、と主は言われる。わたしはダビデのために正しい若枝を起す。王は治め、栄え、この国に、正義と恵の業を行う。」
と預言されています。

このように神様が約束されたメシアは、ダビデの子孫から現れるのです。イエス様こそ、真のメシアであることを証明するためには、イエス様がダビデの系譜から生まれて来られたことを明らかにしなければなりません。ですから、マタイが記した系図の書き方は、ダビデの子に、重点が置かれています。

マタイ1章17節に、
「こうして、全部合わせると、アブラハムからダビデまで14代、ダビデからバビロンへの移住まで14代、バビロンへ移されてからキリストまでが14代である。」

と記されているところに、その根拠が隠されていると言われています。三つに区切られた事は、イスラエルの歴史のまとまりが整理されています。

一説に依りますと、アブラハムからダビデまでは、**上昇時代**、ソロモンからエコンヤまでは、**下降時代**、バビロンに捕囚となったエコンヤから、イエス様までは**暗黒時代**だと言われています。イスラエルにとって、ダビデが頂点であり、誇りであり、約束のメシアは、

『ダビデのように、イスラエルを強く、豊かにしてくれる存在だ』と、
思い込んでいました。マタイが14に固執するのは、14は完全数7の倍数であると共に、一説

に寄りますと、14は(4+6+4)に分けられます。ヘブライ語の、アルファベットは、数字にも転用されます。この数字をアルファベットに直すと、**ダビデ**と読めるのです。とは言え、各世代が正確に14代であった訳ではありません。しかし、マタイは、

『イエス様が、約束のダビデの系譜から、お生まれになった。神様の約束は、イエス様の誕生によって成就したのだ。』
と宣言するために、敢えて14代で区切っているのです。

しかし、それは、人々が期待し、思い込んでいた、

『ダビデのように、国力を強め、豊かさをもたらせてくれる、この世のメシアではない』
ことを、マタイは伝えなければなりません。当時の系図と言うのは、王位、大祭司、部族長、家長の決定に必要でした。それは当然、血統や家父長制が重んじられましたから、男性が名を連ねた系図が、系図なるものでありました。それに対して

マタイは、神様が求めておられるのは、
『イスラエル人だけではなく、地上の全ての民、異邦人も救いたい』
と願っておられる事。そして、何よりも神様は、
『社会の底辺に追いやられている、弱い者、貧しい者、病んでいる者、苦しんでいる者を助けたい』

と願っておられること、
『男性だけではなく、当時は人権が認められなかった女性や子供も、全ての人を救いたい』
と願っておられる』
と言う事を、考えています。

その神様の御心が、この系図には込められているのです。マタイが記したイエス・キリストの系図は、この世的な系図ではありません。女性の名を系図に入れると言うことは、当時としては、異例のことでありました。マタイ1章3節に出て来ます、タマルは、創世記38章に登場します、ユダの長男エルの妻で、カナン人であったであろうと言われています。エルの死後、弟オナンの妻となりましたが、彼も死に、その弟は未成年であったために、成人するまで実家で、寡婦の生活をするように命じられ、それに従いました。ところが、その末弟が、成人しても、父ユダは、タ

マルを呼び戻してはくれませんでした。タマルは舅ユダが、羊の毛を刈りに行くところに、遊女の姿をして、ユダの子を宿して、ペレツとゼラの双子を産みました。古代の生き方、考え方で、今日の倫理観で、それを量る事は出来ません。タマルは、夫の血筋を守る事を自分の使命と考えたようです。タマルはその一途さによって、彼女の名も、メシア誕生の系図に記され、その子ペレツが、アブラハムからイエス・キリストへの系図に名を記すことになりました。

次ぎに出て来る女性の名は、5節のラハブです。ラハブの名はヨシア記2章に登場します。彼女も異邦人で、エリコの町で遊女宿を営んでいました。彼女は旅人達の話から、出エジプトを成し遂げ、カナンの地にやって来たイスラエルの民が、エリコに迫って来ることを聞くと共に、彼らの神様は、エジプトからカナンまで、数々の奇跡を起こして、導いて来られた事を聞きました。ラハブはその事を何人もの旅人から聞いて、イスラエルを守られる神こそ、真の神だと信じました。その事によって、彼女は、自分の命を賭けて、イスラエルのエリコ偵察員の2人を自分の家に匿いました。彼女はヨシア記2章11節で、
「もはやあなたたちに立ち向かおうとする者は一人もおりません。あなたたちの神、主こそ、上は天、下は地に至まで神であるからです。わたしはあなたたちに誠意を示したのですから、あなたたちも、わたしの一族に、誠意を示す、と今、主の前でわたしに誓ってください。そして、確かな証拠を下さい。父も母も、兄弟姉妹も、更に彼らに連なるすべての者たちも生かし、わたしたちの命を死から救ってください。」と頼みました。

神様は、このラハブの真剣な生き方を喜ばれました。彼女と彼女の一族は、イスラエルのエリコ攻略から助け出され、イスラエルの民の中で生かされたばかりか、救い主誕生のための系図に、その名が記されました。彼女はイスラエルの偵察員に、

「わたしたちの命を死から救って下さい。」と頼んだのですが、来るべき救い主メシアは、永遠の死、永遠の滅びから救い、永遠の命を与えて永遠の生に導かれるお方です。

次ぎに登場する女性は、5節のルツです。

ルツも異邦のモアブ人でした。夫の両親がイスラエル人で、飢饉のためにモアブに移住して来ました。モアブで成人した息子たちは、それぞれモアブ人の女性と結婚しました。幸せな時期はあっという間に過ぎて、夫である男性達は、3人とも亡くなり、寡婦となった女性達3人が残りました。生活に困窮した姑のナオミは、故郷に帰る決意をしました。ナオミは途中、2人の嫁を自分の犠牲にしてはならないと、同朋モアブ人の許に帰るように促しました。1人は帰りましたが、ルツは、ルツ記1章16節で、

「あなたを見捨て、あなたに背を向けて帰れなどと、そんなひどいことを強いないでください。わたしは、あなたの行かれるところに行き、お泊まりになるところに泊まります。あなたの民は私の民、あなたの神は私の神。あなたの亡くなる場所でわたしも死に、そこに葬られたいのです。死んでお別れするのならともかく、そのほかのことであなたを離れるようなことをしたなら、主よ、どうか、わたしを幾重にも罰してください。」と言っています。

当時、息子のいない寡婦は、保護者が全くいない弱者で、社会の憐れみを求めて生きて行かなければなりません。貧しく社会の底辺に追いやられました。ルツは、ナオミと一緒に、ベツレヘムに帰ったとしても、落ち穂拾いをしてやっと生きて行くことが出来るであろう大きな困難が待ち受けている事は、百も承知でした。しかし、彼女は、真の神様を知った以上、その神様から離れる事は出来ず、神様に従うということは、姑のナオミにも従う事でありました。彼女は神様に従うことを決断して、ナオミと共にベツレヘムにやってきました。ルツの誠実さは、ボアズに通じ、ボアズもまた、神様に従う誠実さをもって、ルツを妻に迎え入れました。そうして生まれた子供が、ダビデの祖父オベドでした。オベドにはエッサイが、エッサイにはダビデが生まれました。

次ぎに記されている女性の名は、8節の、「ダビデは、ウリヤの妻によってソロモンをもうけ」です。この女性の名はサムエル記下の11章に記されているバト・シェバです。マタイがここで、敢えてその名を記さずに、

「ウリヤの妻」

と記したのには、ダビデの罪を隠さなかったところにあります。イスラエル人にとって、ダビデは犯しがたい存在でした。失敗があれば隠して触れないで置きたいのが、イスラエル人の心情でした。しかし、マタイは、

『人間は誰も等しく罪人であり、神様の前に、ダビデも、名もなき人も、同じ救われるべき罪人であることを示しました。』

マタイはその事を明らかにし、全ての罪人の救いのために、お生まれになったイエス様の系図に、ダビデの罪の跡を記しているのです。

ダビデは、バト・シェバの美貌に惹かれ、バト・シェバの夫、ウリヤや他の兵士が、戦いに出ていることをよいことに、王宮に彼女を招き入れました。バト・シェバが子供を宿した事により、ダビデは誠実で忠臣な、ウリヤを呼び戻しましたが、自分の策に、彼が乗らない為に、今度はウリヤを激戦地の最前線で戦死させるように、その手紙を本人に持たせて、戦地に戻し、ウリヤを戦死させました。その喪が明けると、バト・シェバを妻に迎え入れました。神様がお怒りにならない筈がありません。ダビデへの罪が明らかにされ、その子は死にました。ダビデは心から悔い改めましたが、その後は悩み多い試練の生涯を送る事になりました。

バト・シェバの子ソロモンはダビデの後を継ぎましたが、彼はこの世の栄耀栄華を求め、晩年、主の道から逸れてしまいました。その事が、イスラエルを亡国に向かわせる起点となりました。遂に紀元前587年ユダ王国は、バビロニアに滅ぼされ、バビロン捕囚となってしまいました。紀元前539年、ペルシャが、バビロニアに勝利した事によって、捕囚民は解放され、帰還が赦されました。エルサレムには、帰還民の信仰によって、紀元前515年に、粗末ながら、神殿が再建され、ユダヤ教として信仰復興が成されました。しかし、依然、列強に支配され、民衆は時代を重ねる毎に、ダビデ時代を再現してくれる、約束のメシア救い主を待望しました。

紀元が始まろうとする数年前、ダビデの血筋を引くヨセフは、マリアと婚約しました。マリアはヨセフと婚約中に、聖霊の力によって神の御子イエス様を、その身に宿しました。ヨセフは、

御使いの命令通り、マリアを妻に迎え、生まれた子供に父親として、イエスと名付けました。ここにイエス様は公にヨセフの子として、その系図に名を記されました。

イエス様は、全人類の罪を贖い、人類に永遠の命に至る道を開く為に、アブラハム、ダビデに約束された、神様の契約を成就するために、人の子となって彼らの系譜の中に生まれて来られました。イエス様は人間では成し得ない、永遠の滅びからの救い主として、真のメシアとして、アブラハムの子、ダビデの子として、彼らの系譜の中に生まれて下さいました。イエス様が生まれて下さったことによって、アブラハムの祝福の真の目的が成就し、ダビデの永久の王座が確立しました。

私達は、この様に人類救済の歴史を導いて下さった神様に、心から感謝して、クリスマスを迎える心の準備を致しましょう。

お祈りを致します。
憐れみ深い天の父なる神様

真の救い主イエス様を、アブラハム、ダビデに約束された通り、人の世に遣わして下さい、御救いを、お与え下さったことを心から感謝いたします。

イエス様の系図から、ご自身の人類救済の御愛が伝わって来ます。神様のこの深いご愛に、応えて生きる者とならせて下さい。

尊い救い主イエス・キリストの
お名前によってお祈りを致します。

アーメン。